

### 北信越に出現していた地震活動静穏化について

これまで北信越地域で、LタイプおよびMタイプの地下天気図双方で地震活動静穏化の異常が出現していた事から、**2017年6月19日**のニュースレターで、以下の予測情報を提供してきました。

従ってこれまで述べましたように、岩手県（およびその沖合）地域の異常につきましては、まだ異常が顕著に続いている事から、地震が発生するとしてもその時期はもう少し先であると推測できます。右図は地下天気図解析による次に内陸で被害地震が発生する可能性が高いと思われる地域（黄色いサークル）をポンチ絵として示したものです。

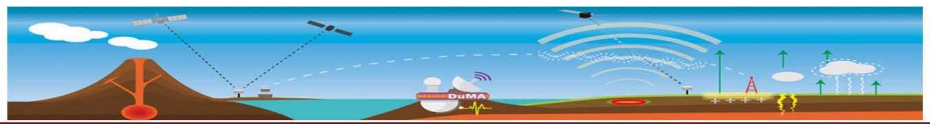
今後内陸での比較的大きな地震が発生する可能性の高い地域

このうち、山陰地方の異常につきましては、下図左のように2018年4月9日にマグニチュード6.1の地震が島根県西部で発生し、対応する地震が発生したと考えています。ただ北信越の異常につきましては、予測を公開したすぐ後の2017年6月25日に長野県西部でマグニチュード5.6の地震が発生(下図右)してはいますが、地震活動静穏化の面積を考えると、少し発生した地震が小さいと考え、しばらくの間北信越地域では、もう少し大きな地震発生の可能性が存在するのではと考えていました。



その後、地震活動の推移を監視を続けるとともに、より小さい地震(それまではマグニチュード2以上の地震を用いていましたが、現在はマグニチュード1.5以上の地震をすべて使用して解析を行っています)まで使用した解析アルゴリズムに変更を行い、解析を過去に遡って実施いたしました。

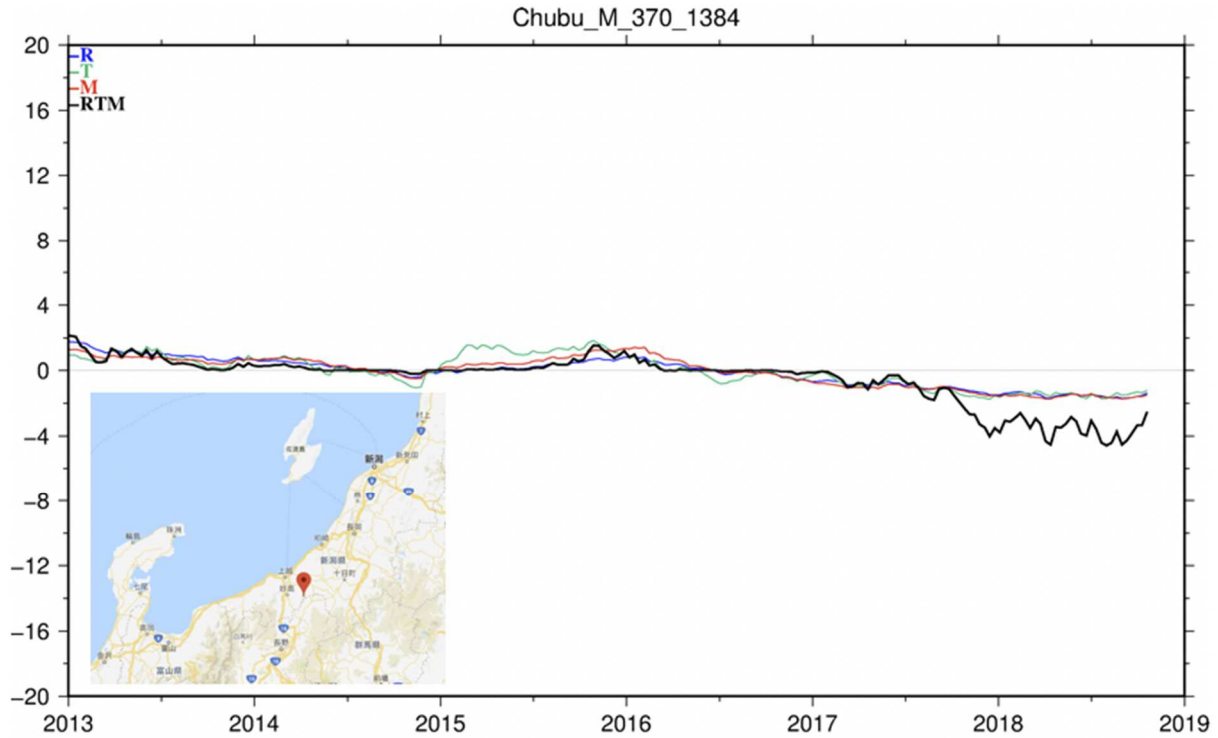
その結果、北信越の地震活動静穏化異常は、当初予想したより規模が小さい事と考えられる事が判



明しました。

従いまして、昨年6月19日にお知らせした北信越の異常は、それほど深刻なものとは考えにくく、この予測は狼少年であったと判断し、解除したいと思います。現在は地下天気図で青く色が塗られない程度の弱い異常が続いている状況です。

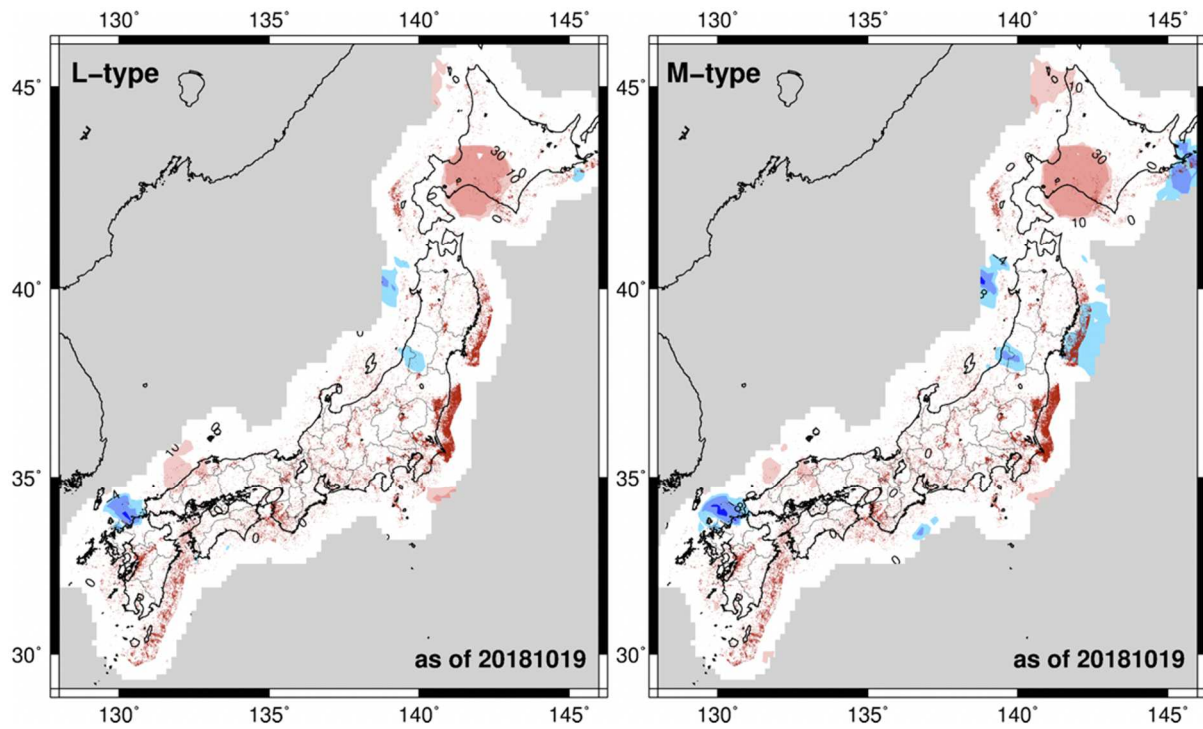
下の図は北緯37度、東経138.4度(新潟・長野県境、図で赤でマークした地点)における RTM の時間変化曲線です。横軸は2013年からとなっています。



新たな解析では、2017年春ごろから弱い地震活動静穏化が開始し、現在もそれが続いているという事がわかります。深刻な異常とは考えていませんが、今後の推移を追跡していきたいと思います。

### 日本列島陸域の地下天気図®

上に述べましたように、日本列島陸域の地下天気図解析で従来指摘しておりました北信越の異常は解除いたしました。次のページにお示しする地下天気図は10月19日時点のLタイプとMタイプです。現在双方に共通している地震活動静穏化の異常は九州北方の異常と規模は小さいですが新潟・山形県境の異常です。また現在はすでに静穏化は解消しておりますが、近畿地方(若狭湾を含み、紀伊半島まで含む)は地下天気図解析では、陸域において過去の経験則が正しければ、現在最も地震発生の可能性が高い地域と考えております。



10月19日時点の地下天気図(左:Lタイプ、右 Mタイプ)